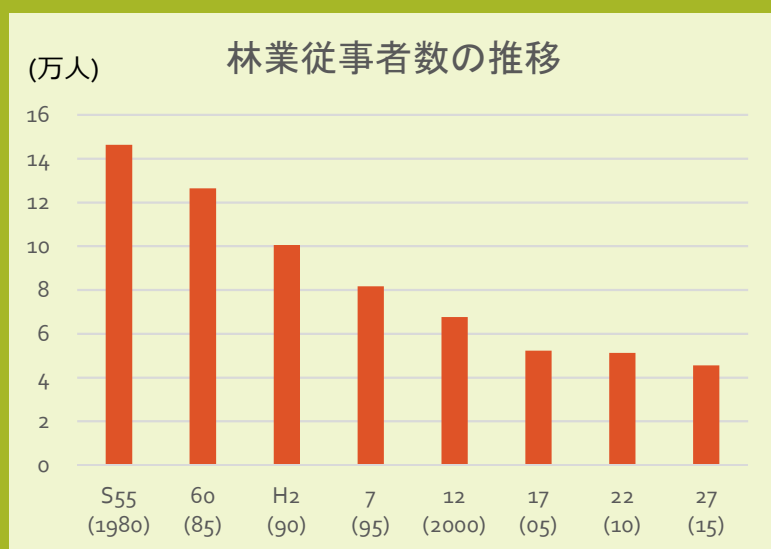


中越の国有林における取組

—令和2年度版—

中越森林管理署

下刈の省力化(省略)のため、下草の繁茂を抑えるマットの設置試験をはじめました



森林・林業白書(令和元年度)より抜粋

→林業従事者数は減少が続いている
中でも、下刈作業は夏場の
厳しい環境下での作業



労働力の確保が難しくなる
中、下刈作業を省力(省略)
していくことが必要

下草の繁茂を抑えるマットに求められる性能

- 5～6年間(下刈期間)腐朽しない
- 5～6年間定着している
- 生分解等により回収が不要
- 取り扱いが容易
- 設置費用を含めて下刈コストと同等以下
- 積雪地でも機能を発揮するもの
(試験地が豪雪地帯につき、積雪による影響を考慮)



6種類の植物繊維マットを選定、設置

マット設置状況



1.ヤシ繊維



3.ヤシ繊維
+ 亀甲金網



5.麻



2.ヤシ繊維(密)



4.ヤシ繊維(密)
+ 亀甲金網



6.麻+麻紐



職員によるマット設置(7月20日)

今年度を含めた5年間で下記の調査を行い、マットの実用性を評価していきます

- 植栽木の連年生長量
(苗高・根元径)
- 耐久性および耐雪性
(経年による破損とずれの程度)
- 積雪量
- 設置人工数

本取組は、令和3年2月16日～17日に開催された関東森林管理局森林・林業技術等交流発表会でも発表を行いました

https://www.rinya.maff.go.jp/kanto/sidou/kanto_presentation.html